



幼い日がよみがえる

学 園 長 小 島 澄 人

最近、幼い頃がよみがえってきます。たくさんいたおじさん、おばさんが先日で最後の方がいなくなりました。けど、たくさんのおじさんたちが全国にいます。

もう高齢者ばかりです。自分が幼い頃、本当にいろいろお世話になりました。幼稚園に通うためにおじさんの家で生活した時、村中の皆さんにかわいがられました。よく遊んでくれました。幼いながらも一人一人の私に向けられた優しい言葉や、思いやりが思い出されます。大きくなり就職先が決まってもおじさんやおばさんから年中、おさかなやいろんなものが送られてきました。先日も80をとっくに超えたいとこの方から長崎の名産の「かんころもち」が届きました。かんころもちが大好きでした。広島からはおいしいよと、甘夏が一箱届きました。今の私の家には甘夏はたくさんありますが、届いたものしか食べませんでした。柑橘で作ったジャムがそえられていました。昨日は五島より「お刺身を食べてください」と、さばいたお魚がいっぱいでした。本当においしくて食べ続けたほどでした。

こんなにお世話になり、いまだにお世話になっている、幼い時に受けた周りからの気持ちを大切にしないでと、最近、「幼い日がよみがえります。」幼稚園の時に魚釣り、素潜り、木の上に隠れ家を作ったり、独楽回しも覚えました。道端に落ちているごみを拾ったり、海岸に流れ着いたものを集めて燃やしたりしていました。よくそのおじさんは私にいろんなことを教えてくれました。今の私のできることのほとんどがこの時に身につけたものです。父親の用で、何キロか離れたところまでお使いに行っていたことが当たり前でした。「三つ子の魂百まで」もそうですが、身につく遊びも幼い時かもしれない。

70 近くになり、そろそろ引き時かな、とも思ったりしますが、まだまだやり残しがいっぱいあるようです。子どもたちが共に遊び、共に学ぶ、そして共に身につけていく大切な時期、その大切な時期に「幼児教育に携われる」、この喜びを先生方に熱意をもって真剣に伝えることだ、その仕事が大変なことよくわかるが、それ以上に得る喜びがあるということ、一人でも多くの方が先生を目指してほしい、生きがいとしてほしい。まだまだ求人すると応募がありますが、全国の、いや近隣の幼稚園や保育園も厳しいようです。喜びが大きければ大きいほど、どんなことにも乗り越える力がきっとあるはずです。残りの人生、幼稚園の先生、その育成に精進することです。新卒の先生が躊躇してしまっている業界のイメージ打破、またかつては先生だった人に声をかけたり、復帰を促すこともやっていかなくてははいけません。今年度の目標、「子どもにとっての最高の環境、それは最高の先生に出会うこと」、これを目標に頑張ります。

私の幼稚園の先生、いまだに頑張っています。私のことを今でも応援してくれています。そんな先生になりたい。